



年次 報告書

2020.2.1-2021.1.31

A N N U A L
R E P O R T
2 0 2 0

peace winds
J A P A N



いま、この瞬間も、ピースウィンズ・ジャパンのスタッフは、世界中で問題解決の最前線に立っています。

2020年度のピースウィンズ・ジャパン(PWJ)の活動をまとめた年次報告書が完成しました。日頃のあたたかいご支援とご協力に対し、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。昨年度は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が世界的に流行し、感染症流行下での支援という新たな課題にも直面しました。PWJの国内および海外の支援地で、今もスタッフは支援を継続するために奮闘しています。今年度も困難な状況に希望を失うことなく、国内外のあらゆる課題の解決に、スタッフ一同、挑戦を続けます。引き続き、ご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

代表理事兼統括責任者 大西 健丞

2020年度を象徴する出来事は、なんといっても「新型コロナウイルスの流行」だったと思います。振り返って、いかがでしたか？

これまでに、エボラ出血熱の対応で現地にスタッフを送った経験などを踏まえ、5年程前から感染症のリスクが世界的に高まることを想定し準備を始めていました。具体的にはN95マスクや医療用ガウンなどの備蓄を、SARSやMARSクラスの感染症を想定して進めていました。日本は大規模災害、感染症などに対応する医療チームが弱いと言われています。その中で民間でできること、民間だからできることが必ずあります。私たちは、そこを担いたいと考えています。その為には災害、感染症に対して多くのシナリオを用意し、戦略・戦術・ファイナンス・人材リソースをシミュレーションしながら準備する必要があります。残念ながら昨年度は、その一つが現実化してしまいましたが、準備を行っていた分、迅速に支援を展開できたと思います。

災害医療支援について、2021年度の抱負と目標を教えてください。

空飛ぶ搜索医療団"ARROWS"の目標は、より多くの人をより早く救うため、空と海のプラットフォームを整備することです。甲板にヘリコプターが降下可能で、患者の応急処置ができる船が必要だと考えています。さらに医療チームの更なる充実も重要です。医師と看護師の数を増やし、多くの現場で経験を積む必要があると思います。首都直下地震や南海トラフ地震が発生し、病院の機能がダウンしている中で、我々が極めて短い時間に対応し、多くの方々を救うためにこれらが必要だと考えています。



保護犬事業について、2021年度の抱負と目標を教えてください。

広島県の殺処分はこの数年間、犬・猫ともに私たちも含めた動物保護団体の努力によってゼロとなっています。このモデルを広島県だけでなく、今も殺処分されている全国3万頭以上の犬猫のために、様々な形で広げていきたいと考えています。日本全土で故なく処分されてしまう動物がいなくなるように頑張りたいと思います。



海外事業について、2021年度の抱負と目標を教えてください。

混乱の中にある国や事業地への支援を続けていく一方で、COVID-19に代表される医療保健の分野で大きなニーズが出てきていると感じています。特に感染症への対応では、COVID-19以外の新しいものが出てくる可能性もありますし、すでに風土病として蔓延しているものもあります。私たちは感染症対策も含め、より海外での医療支援にも力を入れていこうと思っています。



PWJがめざす「Social innovation platform」とは、どういうものなのでしょうか？

組織は時代のニーズに対応できないと後退します。変わっていく世の中で、自分たちがそれに合ったソーシャルサービスを提供できているかを常に考えているべきだと思います。「餅は餅屋」と考えずに(そこは大事にしてもいいのですが)、常に世の中のニーズは何かを考える必要があります。そのためにたとえ小さなプロジェクトでも実施する意味はあり、そういった意味で「イノベーションを起こすプラットフォームであり続けたい」「国際協力NGOという狭い枠組みにこだわらないでほしい」という想いが込められています。私は常にPWJは面白い団体でありたいと考えています。そうでないと一番大事な「優秀な人材」というものを得られなくなってしまうと思います。我々の最大の財は「人」なので、そこに惹きつけられる優秀な人材に参加してもらうためには、絶対に挑戦してイノベティブなプロジェクトを作り続ける必要があると思います。



空飛ぶ搜索医療団"ARROWS"は、災害支援として立ち上げて、いまは新型コロナの医療支援をしています。それも領域を超えた「Social innovation platform」の効果なのでしょうか。

空飛ぶ搜索医療団は災害緊急支援を実施する事業です。しかし、災害緊急支援は毎日続くわけではないので、「平時になにをするか」という問題が出てきます。地域医療は高度な設備がなく高齢化社会の過疎地の中で医療をやっていく。そしてそれを緊急医療と融合することで、普段は地域医療をしっかりやりながらも、いざという時には世界も含めて即座に緊急医療支援を実施する、という仕組みが人を魅了して、今のメンバーが集まってくれているんだと思っています。今までバラバラのものだった「地域医療」と「災害医療」、それを融合させてひとつのプロジェクトに挑戦するイノベーションです。

TOPICS IN 2020

2020年1月	2020年2月	2020年3月	2020年5月	2020年7月	2020年12月
新型コロナウイルス感染症の世界的な流行を受け、中国で支援を開始	新型コロナウイルス感染症の日本での流行を受け、国内で支援を開始	洪水で大きな被害が出た東ティモールで緊急支援を開始	サイクロンで大きな被害が出たバングラデシュで緊急支援を開始	九州での豪雨発生を受け、緊急支援を開始	保護した犬の里親への譲渡数が約2,500頭に

今の時代におけるPWJの活動を表すキャッチフレーズとは？

「最後の最後まで諦めない」です。弱い人の立場に立つということは言葉でいうと簡単かもしれませんが、実際は難しく、結局見捨てられることもあります。私たちは見捨てられた人、あるいは動物の側に立って最後まで諦めないという信念を持って、スタッフそれぞれが頑張っしてほしいと思っていますし、難民支援、保護犬事業、災害支援などすべてその思いで実施しています。

最後に、支援者の方にお伝えしたいことは？

私たちは「平和を作っていくことに貢献したい」「世界の平和を諦めない」という若者らしい思いが出発点でした。いまだにその気持ちは衰えていません。例えば、難民を支援するだけでなく、さらに「どうやって武力紛争を起こさせないか」、起こっている場合は「どうスピードダウンさせるか」というような、ただの緊急援助だけじゃない取り組みを実施したいのです。それが「平和を諦めない」というフレーズにつながっています。「世界の平和、そんなのは夢物語だ」という人はたくさんいます。確かに、非常に難しいというのは、武力紛争地に長いた自分にはよくわかるのですが、それでも諦めない人たちが人間には必要だろう、と。それを体現するようなチームを支援者の方達と一緒につくっていききたいなと思います。これからも是非、よろしく願いいたします。



このインタビューの動画はこちらからご覧ください。

世界の平和を諦めない
～大西健丞に聞く～
<https://youtu.be/B4CtRNQSPqo>



「必要な人々に、必要な支援を」

私たちピースウィンズ・ジャパンはこの言葉を合言葉に、国内外を問わず、あらゆる社会問題に取り組んでいます。

中核となる活動は、「海外事業」「災害支援事業」「犬の保護・譲渡事業（ピースワンコ・ジャパン）」の3つ。

また、佐賀伝統工芸振興支援や過疎地での診療支援など地域創生事業にも取り組んでいます。

1 海外事業

OVERSEAS OPERATIONS

1996年から紛争や貧困、災害などによる人道危機や、生活の危機にさらされた人々の支援を続けており、これまでに世界33の国と地域で活動してきました。



累計支援国

33の
国と地域

累計受益者

17,386,350人

スタッフ国籍

21カ国

アフガニスタン、アメリカ、イギリス、イラク、インドネシア、ウガンダ、オーストラリア、ケニア、シエラレオネ、スリランカ、タイ、ネパール、ハイチ、ボスニア・ヘルツェゴビナ、マケドニア、ミャンマー、モザンビーク、中国、東ティモール、南スーダン、日本（2020年度）

2 災害支援事業

EMERGENCY DISASTER RELIEF

一秒でも早く、一人でも多くの被災者を助けるために、レスキュー活動から医療・物資・避難所運営支援などを被災地で実施する事業です。



累計出動回数

55回

1996年以降／空飛ぶ捜索医療団構成団体の活動も含む

新型コロナウイルス感染症緊急支援先医療機関、福祉施設、自治体数

4,309カ所

災害連携協定締結先数

40カ所

空飛ぶ捜索医療団構成団体の協定先も含む

3 保護犬事業

SAVE THE DOG PROJECT

人間の身勝手によって生み出される犬の殺処分をなくし、ペットと人間の共生を実現する目的で運営される、犬の保護・譲渡事業です。



命を救った犬の数：2021年1月末現在

約6,500頭

譲渡会開催数：2020年度

リアルイベント 49回 オンラインイベント 37回

広島県で犬の殺処分機が動いていない日数

1,767日間

ガス室による殺処分

peace winds
J A P A N

設立から

25年

スタッフ数

411人

2021年1月末現在

PWJへの延べ支援者数

122,747人

2020年度

関連SDGs数

16個

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS



1 STAFF INTERVIEW

海外事業



水処理設備を設置した避難民キャンプを視察（イラク）



ハリケーンの被災者向けに行ったシェルターキットの配布（ハイチ）

海外事業部
シリア事業調整員
井上 慶子

自己紹介をお願いします。

海外事業部でシリア事業の調整員として従事しています。PWJには2016年の9月末に入職しました。大学院で博士課程まで学び、緊急人道支援団体で働きたいと思っていたとき、PWJのイラク事業の求人を見つけて応募しました。はじめイラク事業のデスクを担当していたのですが、入職して数ヵ月でシリア事業を立ち上げるという話になりました。私自身が学生時代にシリアに行ったことがあって卒業した後もシリアの友人と連絡を取っていたり、シリア危機後、ヨルダンのシリア難民の方をボランティアで訪れたりと縁があったので、立ち上げから関わっています。



シリア事業でどんなお仕事をしていますか？

シリア国内での食糧支援や、新型コロナウイルス感染症対策として衛生用品、サニタIZERやせっけんなどの配布、衛生環境の整った場所に人々が住めるように住居の修繕などを行っています。他の活動地域だとPWJのスタッフが現地に行って事業をマネジメントするんですが、シリアの場合は外務省が退避勧告を出している地域なので日本人スタッフが入域できないんですね。そのためシリア国内の提携団体と協力して事業を行っています。定期的に東京からシリア周辺国に出張に行きますが、普段は

メールやSkype、WhatsAppなどのアプリケーションを通じて事業が計画通りにうまく進んでいるかどうか、緊急時に私たちに何かできることがあるか、という対応の検討と実施をしています。

シリアの人々の暮らしや文化、人柄で、印象に残っていることはありますか？

2007年の終わりから2008年の初めにかけて訪問し、今でもいちばんよく覚えているのは、ダマスカス郊外県のドゥーマという地方に行ったときに、知らない人たちが「シャイー（アラビア語で『お茶』）を飲んでいけ」と呼びとめてくれたことです。積もって溶けないぐらいたっぷりのお砂糖の入ったシャイーを行く先々ですすめられて飲んで、そのうち「も、もう大丈夫」って断りながら（笑）街で地図を眺めていると、わーっと人が集まってきて「どこ行きたいんだ?」「こっちだ、こっちだ」と助けてくれる、人のあたたかさがすごく印象的でした。一方で政治的な話は表立って話すことはできず、アレッポ県のクルド人の方のお宅に行った際には、鍵をかけてカーテンを閉め切った暗い部屋でひっそりと彼らの話を聞いたことがあったんですね。その時、シリアの表でのあたたかい部分と、裏で人々が抱えている部分を両方見た気がしました。

井上さんは、なぜ「NGOで働きたい」と思われたのでしょうか？

はじめは国連機関を目指していました。私の父親が高校の英語の先生で、昔からセサミストリートや英語の歌のテープがあったり、なんとなく英語に囲まれた生活だったんです。小学生のときに父親の出張先だったオーストラリアに行き、現地の学校でいろんな肌の色、目の色の子と一緒に勉強しているのを見たことや、初めて英語で「水が欲しい」と言って水を買った時のうれしさが自分の中で刺激になって「海外で働き

たい」と思うようになりました。実家のある街も外国からの移民労働者が住んでいたり、小学校に日系ポルトガル人の子がいたり、様々な国の人が身近で、自然と影響を受けたのかもかもしれません。

小学校高学年のときに、ダイアナ元皇太子妃の慈善活動をテレビで見ました。王室の方が地雷原やエイズ孤児院を訪れていることに驚いて。それから緒方貞子さんの存在もありました。高校1年生のホームルームで「私は将来、国連で働く!」と宣言していたらいいんです（笑）

※緒方貞子さん…日本人初の国連難民高等弁務官。

国連志望だった井上さんが、NGOを志したきっかけを教えてください。

博士論文を書くためにジンバブエに住んでいた大学院の頃、UNICEFジンバブエでインターンをしました。初めてフィールド出張に連れて行ってもらったとき、電気も窓ガラスもない牛舎のような建物の中で、子どもたちが勉強しているのを見たんです。それで「やっぱり厳しい状況にいる子どもたちの教育を改善する支援をしていかなければ」と思いました。そして、「なかなか支援が届かない人たちにリーチできるような活動がしたい」、「危険にさらされた命を救い、教育支援に繋がりたい」と思い、国連ではなくNGOで、特に緊急人道支援を行う団体で働きたいと思いました。

井上さんにとっての「国際協力」とは何ですか？

私は「困っていることの助け合い」「共助」なのかな、と思っています。彼らはけっして「かわいそうな人」ではないんですよ。尊厳があり、生きる喜びがあり、苦しいときに這い上がろうとする、大切なものを守ろうとする。そんな強さのある人たちです。現地の提携団体や他の事業地のスタッフも、ときに彼ら自身が被災者であることがあります。彼らはその地域や人々のことをよく知っているし、何かあったときには、「大丈夫だから、任せておけ」と、すごく頼もしい存在。私たちが日常で困っていることがあるのと同じように、戦闘や自然災害があって、ひとりで乗り越えられず困っている。私たちはそれに対して、現地に行って、手助けをする対等な関係。そう考えると、「国際協力」は、助けて、思いやりを繋げることなのかなと思います。

「助けてあげる」ではなく、困っていることを「助け合う」ということですね。

そうですね。お互いに学び合って。彼らが明日どんな世界を見るんだろう、それを一緒に見たいな、という気持ちで行動しています。

仕事をする上で大切にしていることは何ですか？

一番は、人々や提携団体のどんな話もしっかり聞き、一方的な否定はしないこと。そしてフェアでいる。彼らと同じ目線で、心から向き合うことを大切にしています。一方で、私情は絶対に入れないことを徹底しています。例えていうなら、彼らの前では絶対に泣かないとか、できるか分からないことに「YES」と言わないとかです。冷静な判断をしなくてはならない、また、私たちにも限界があるので、できないことがあったらしっかり「NO」って言わなきゃいけない。でも、そのときにはただNOと言わず、なぜNOなのか理由を説明して、可能な限り代案を出して一緒に解決策を模索しています。同じ目線、同じ立場で彼らの主張をしっかり受け止めた上でお返事をしていく、「寄り添う」ことを意識しています。

井上さんから見てPWJはどんな団体ですか？

緊急事態が起きたとき、私たちに今どんな活動ができるのか、短時間でリスク分析をして行動を起こす、「誰ひとり取り残さない」というモットーを体現している団体だと感じます。私たち海外事業のスタッフだけでなく、災害支援事業を行っているレスキューチームもそうですが、自然災害や武力衝突の予兆が出始めたときに情報収集して、なにかあったらすぐ動ける準備体制がしっかりあります。命を守るために素早く行動することによって強みのある団体、飛び出す瞬発力のある団体だなと思っています。

これから実現したいことを一言で言うと、何ですか？

シリア危機でも典型的でしたが、子どもや女性ってどうしても悲劇のシンボルになってしまう。悲劇的な立場に注目することによって彼らにその荷を負わせてしまう流れがあるような気がして、私はそれがすごく苦手で……。かわいそうな状況に置かれたことがシンボリックに扱われるよりも、彼らの強さのために世界が動くように、その一助になりたいです。



サイクロンで被災した避難民の再定住地区を視察（モザンビーク）

① イラク 〈活動期間：1996年～現在〉

北部の3つの州において、シリア難民や国内避難民など住民の生活環境改善のため、教育、水衛生、保健、シュルター、生計支援、生活物資などさまざまな分野での支援を実施しました。2019年末に避難してきた新規シリア難民に対しての支援も継続し、キャンプの整備や灯油配布の支援を実施しました。



② シリア 〈活動期間：2013年～現在〉

シリア国内の提携団体と共に、戦禍で破損・破壊した住居と校舎の修繕支援、国内避難民や避難場所から戻った世帯等を対象に子ども用の冬服や食料、衛生用品の配布事業を実施しました。また新型コロナウイルス感染拡大に困窮する人々および昨秋に発生した大規模森林火災の被災者への物資配布事業も行いました。



⑤ ウガンダ 〈活動期間：2016年～現在〉

ウガンダ北部と西部難民居住地区では南スーダンおよびコンゴ民主共和国難民およびホストコミュニティ女性に対して保護支援を開始しています。西部ではコンゴ民主共和国難民とホストコミュニティの給水衛生環境改善のために、給水施設の整備、小学校へのトイレ建設、新型コロナウイルス感染症予防対策を含めた衛生啓発事業を実施しています。



⑥ 南スーダン 〈活動期間：2006年～現在〉

国内避難民キャンプや帰還民受入れホストコミュニティにて井戸やトイレの整備、給水衛生施設の整備、衛生普及活動などを実施しました。またサバクトビバッタの襲来による被害への農業支援として農業研修や農具種子配布を実施、新型コロナウイルス感染症対策支援として病院施設内の給水・トイレの整備や衛生キットの配付を行いました。



③ パレスチナ 〈活動期間：2015年～現在〉

封鎖で物や人の出入りが制限され経済の停滞が続くうえにコロナ禍でさらに厳しい状況下にあるガザ地区にて、提携団体とともに、3～5歳児対象の健康診断と栄養失調等の治療、幼稚園教諭の研修、子どもと保護者に栄養教育を提供しました。また、未来を担う若者たちに仕事の機会が増えるよう、職業技術訓練校を運営しました。



⑦ ケニア 〈活動期間：2012年～現在〉

北東部のダダーブ難民キャンプではソマリア難民を対象に仮設住居の建設や若者への起業支援を行いました。また北西部のカロベエイ難民居住地区では、南スーダン難民への現金給付型支援を通じた恒久住宅建設に加え、難民主体による野外排泄根絶や新型コロナウイルス感染予防支援、サバクトビバッタ被害に対する活動を行いました。



⑧ モザンビーク 〈活動期間：2019年～現在〉

サイクロン・イダイの被害を大きく受けたソファアラ州において、手動ポンプ式の深井戸、つるべ式の浅井戸、高架式タンクと太陽光パネルを用いた給水システムを建設し、住民による維持管理のための仕組み作りや、手洗い講習などの衛生普及活動を行いました。ペイラ市内では、中央病院と医療従事者養成学校の改修を行いました。



④ アフガニスタン 〈活動期間：2001年～現在〉

アフガニスタンと日本の7年間の共同事業の成果をハンドブックにまとめてシンポジウムを行い、市民社会強化事業を締めくくりました。また、紛争や干ばつの被害者への給水・衛生支援や、新型コロナウイルス禍で経済的に困窮している人々への食料支援を実施しました。



⑨ エチオピア 〈活動期間：2019年～2020年9月〉

ガンベラ州の難民キャンプで、南スーダン難民を対象に、世帯用トイレやノリアフリー型トイレを難民も参加して建設しました。また、難民らで構成する水衛生委員会(63カ所)の能力強化研修、石けんなどの物資配布、感染予防の手洗いキャンペーンなどを行いました。



⑩ ハイチ 〈活動期間：2010年～現在〉

南県において地域の災害対応能力の強化を目指し、災害に強い建設技術の指導とともにコミュニティセンターを4棟建設しました。また住民全体の水衛生環境や防災の知識向上を目指したワークショップを実施しました。更に、女性の経済的自立と地域経済活性化を目指し、女性グループに向けて加工技術・会計研修を実施しました。



11 スリランカ 〈活動期間：2009年～現在〉

トリンコマリ県内の内戦帰還民エリアにて、収入の向上・安定を目標に小規模農業貯水池7つの修繕と農業用井戸の設置を行い米の収量増加に貢献しました。また、トリンコマリ県内の有機農業を促進するため、100軒以上の農家に有機農業技術トレーニングや農機具支援、市場開拓のトレーニングも行いました。



12 ミャンマー 〈活動期間：2013年～現在〉

毎年乾期になると安全な水の確保が困難なカレン州の村落部を対象に水供給施設を建設しました。さらに施設の長期的な維持管理のための研修、手洗い・励行など衛生に関する意識向上を目指した講習も行いました。また州内の国内避難民が居住するキャンプでも水供給施設の建設、トイレや水浴び場の整備を行いました。



14 バングラデシュ 〈活動期間：2017年～現在〉

ロヒンギャ難民と難民キャンプ周辺住民を対象に、現地提携団体と医療支援を実施しました。特に母子保健サービスに注力し分娩助産や産前産後健診、啓発活動などを実施し、新型コロナの流行を受け手洗いの啓発や衛生用品の配布も行いました。また、サイクロン・アンファン被災地では緊急支援物資の配布を行いました。



15 インドネシア 〈活動期間：2018年～現在〉

スラウェシ地震後に人々が新しく移住した地域において、トイレ及び給水施設の建設を行いました。また、液状化現象により農業ができなくなった地域では、農業再開を目指し、井戸建設や農地の整地、種配布を実施しました。更に自然災害のリスクが継続して高い村では地域防災能力向上を目指した研修会を実施しました。



16 東ティモール 〈活動期間：2003年～現在〉

3月に首都デリで発生した洪水の被災者に物資の緊急支援を行いました。また、新型コロナウイルス感染症の流行を受け、レテフォホの住民450世帯に感染予防の啓発ポスターを配布しました。6月にはレテフォホ事務所を一部改装してゲストハウスをオープンし、コーヒーの収穫体験パッケージの提供を開始しました。



17 モンゴル 〈活動期間：1996年～現在〉

貧困や親の育児放棄などの事情で、養護施設「ヴェルビストケアセンター（VCC）」に保護され生活している約40人の子どもたちへの支援を継続しました。



13 ネパール 〈活動期間：2015年～現在〉

2015年地震の震源地シンドゥバルチョーク郡で、安全な水を確保するための給水施設を建設しました。さらに復興支援の一環として、農家の生計向上を目指し、商品作物としての野菜の栽培技術や販売促進の支援を続けました。また、バクタプル郡では、伝統工芸品であるダカ織の製造・販売技術の向上支援を行いました。



NGO相談員

2020年度も、外務省よりNGO相談員業務の委嘱を受けました。国際協力分野で経験と実績をもつ日本のNGOが外務省の委嘱により「NGO相談員」となり、NGOの国際協力活動・組織についてなど質問に答えます。また、国際協力関係のイベント等で相談業務や講演を行う「出張サービス」も実施します。



18 中国 〈活動期間：2020年1月～3月〉

中国の武漢市を中心に発生した新型コロナウイルス感染症に対応し、提携団体と協力して現地の病院にマスク50万枚や医療資機材を提供しました。



「ピースサポーター」

になってPWJの活動全般を支えてください。

月々 **1,200円**～

毎月の継続的なご寄付により、自然災害の被災者や紛争による難民などに必要な支援を届け、長期的に支えていただく支援プログラムです。

ピースサポーター

検索

<https://peace-winds.org/support/supporter>



STAFF INTERVIEW

2 災害支援事業

国内事業部
空飛ぶ捜索医療団
"ARROWS"
レスキュー隊小隊長
田邊 圭



佐賀豪雨の被災者への聞き取り



北海道胆振東部地震の災害現場で

自己紹介をお願いします。

PWJ本部が置かれている神石高原町の出身で、大学では農業を勉強していました。大学卒業後は青年海外協力隊に参加し、キルギス共和国で2年間農業指導に携わっていました。キルギスの人たちは最初はそっけない印象でしたが、僕の顔がキルギス人顔だからか、もともと遊牧民で交易の盛んな地域だったからか、よく人の家に招待されてお茶をしたり、ウオッカを一緒に飲んで仲良くなったりと、とてもあたたかい人たちでした。

帰国後、PWJに入ろうと思ったのはなぜですか？

僕が帰国する前年にPWJが本部を東京から移して「なぜPWJが神石高原町に？」と気になっていたんです。地域創生事業への取り組みが「地元で何かやりたい」という自身の思いと合致したので入職を決めました。それからミャンマー事業、ネパール大地震の支援、地域創生事業、西日本豪雨の支援事業を経て、現在は空飛ぶ捜索医療団"ARROWS"で活動しています。

空飛ぶ捜索医療団ではどんなお仕事をしていますか？

レスキューチームの小隊長として、災害時に迅速に出動するための体制づくりや、災害が起これば被災地へ行き、捜索救助活動や物資支援等を行っています。新型コロナウイルスの感染者が発生した医療施設に実際に支援に行くこともあります。

小隊長をされている田邊さんにとって「災害支援」とは何ですか？

救助犬チームとして出動して行方不明の方を見つけることができなかったりすると、すごくつらかったんです。でも捜索後に物資支援等で人の役に立てたことで、やりがいを感じられました。できることが限られる中でも困っている人たちの力に少しでもなれば、少しでも状況を変えていければ、という思いで活動しています。

レスキューの現場での大変さは？

どの場所に支援に入るべきなのかを見極める大変さがあります。発災から3,4日は睡眠時間も確保しにくい。活動中は集中し、興奮状態にあるので支障はありませんが、終わった後にどっと疲れがきます。あと、僕らには普段やるべき通常業務があるので、出動して戻ってきたとき、溜まった業務の締め切りに追われることも大変ですかね(笑)。

チームの医療従事者とともに活動していますが、医療従事者でない「調整員」の重要性を感じることはありますか？

新型コロナの緊急支援では「調整員の仕事は結構たくさんある」と感じます。医師が能力を発揮できるのは看護師がいてこそ。さらに円滑に活動するにはロジなど調整員の役割が重要で、いろんな人がいてチームが成り立つんだなと、ここ最近実感しています。

事務方、災害の現場、医療従事者のバックアップと非常に幅広い仕事をされていますが、仕事をする上で大切にしていることは？

「町のために何かしたい」という思いがあるので、どんな活動でも「本部を神石高原町に置く団体がやっている事業」ということを忘れないようにしています。もうひとつは、すぐに「できない」と言わないこと。10割では無理なことでも3割ならできかな、とか、「どうすればいいのか」を柔軟に考えるようにしています。

今後の夢、実現したいことがあればぜひ教えてください。

地元である神石高原町に関わる仕事をもっとしていきたいです。職場も、古民家を事務所にするとか、清流に足をつけて涼みながらPCで世界とつながり業務をするとか。都会からも神石に来たくなるような魅力のある場所にしたいなって、ずっと考えているんです。

医療・レスキュー事業



捜索救助・医療チームの能力強化に取り組みました。新型コロナウイルス感染症対策支援では、国内の医療機関などに計100万枚以上のマスクを支援したほか、クラスター発生施設での診療も行いました。支援の届きにくい介護福祉施設などを対象とした物資提供やオンライン研修では約4,300の施設にリーチしました。



東日本大震災被災者支援

宮城県南三陸町に建設した交流拠点を運営する現地NPOのサポートを通じて、高齢者や地域住民が気兼ねなく安心して楽しい活動が続けられる環境づくりを継続しました。地域住民から依頼される業務の件数が例年より増加するなど、活動の一層の浸透がみられました。



西日本豪雨被災者支援

前年度から引き続き、岡山県倉敷市真備町の地域コミュニティを再構築するための活動を継続しています。被災し再建された集会所への備品提供や、地域の絆づくりの活動続ける地元団体のキャンパシティブルディング、また米国政府の助成金を活用した防災減災事業を実施しています。



令和2年7月豪雨被災者支援

発災当日からヘリコプターで捜索・救助にあたり、孤立集落に取り残された被災者・ペットの搬送や診療活動を行いました。また、感染拡大防止のための避難所の環境整備や、物資提供を実施しました。緊急期以降は遠隔にて、地元団体と連携して企業からの提供物資を届けたり、地元団体による復旧活動をサポートしたりしました。



台風19号被災者支援

2019年の台風19号に対応し、7月まで、宮城県内17市町の全壊・大規模半壊世帯を中心とした被災者に対する家電の提供に取り組みました。9月からは、宮城県大郷町で全壊した障がい児施設の運営を支援し、福祉車両2台の提供と、COVID-19等の感染症対応策に関する職員向けの勉強会を行いました。



「ARROWSサポーター」になって災害緊急支援活動を支援してください。

月々 1,000円～

「空飛ぶ捜索医療団"ARROWS"」の活動は、全国のみなさまのご支援・ご寄付によって支えられています。一秒でも早く、一人でも多くの被災者を助けるために、長期的に支えていただく支援プログラムです。

ARROWSサポーター

検索

<https://arrows.red/donation/>



STAFF INTERVIEW

3 保護犬事業

国内事業部
ピースワンコ・ジャパン
医療マネジャー
八重樫 夢摘



「どのワンコにも家族をつくってあげたいんです」



自分で食べられないワンコの食事の介助

自己紹介と、ピースワンコとの出会いを教えてください。

生まれも育ちも埼玉県です。小学校の時に犬を飼ったのがきっかけで犬に関わりたと思い始めました。大学では動物全般について幅広い分野で学びましたが、動物の中でも特に犬が好きで。ピースワンコのことを知ったのは大学2年生のとき、24時間テレビをたまたま見ていて知りました。3年生になってインターンシップでピースワンコを選び、その後、迷わず就職しました。

日常の業務について教えてください。

入職後、主に病気の犬が暮らす「オレンジ犬舎」で看護と介護を担当しています。ここ一年は避妊去勢や医療機器の購入など獣医師と関わる機会が多くなりました。大学は座学が多く実習が少ないので、ピースワンコで学んだことのほうが多いです。皮下補液や皮下注射など就職してから初めてやったことも多く、知りたいことを教えてくれる人がいる環境がとても良いです。勉強したい人にとって、こんなに実地でやらせてもらえるところは他にはないと思います。

大変なことはありますか？

食べてくれない子がどうしたら食べてくれるか、あれこれ試してもうまくいかないときは大変です。違う形のお皿に変えたり、高さを変えたり、認知症で嗅覚が鈍っている子がどうやったら全部食べてくれるか試します。だからあまり食べることができなかった犬が全部食べてくれるとうれしいです。スタッフ同士で試行錯誤して、「これがよかったよ」と共有しています。

犬を看取るときはどんな気持ちですか？

看取ることが続くとうつ病がきついです。が、「悲しい」よりも「犬に教えてもらった」という感謝の気持ちが大きいです。その子がいたから介護の大切さを知ることができた、これから他の犬にしてあげられることが増えた、と。最近は高齢だったり病気や障害のある犬も譲渡に出ることが増えたので、どのワンコにも最期を看取ってくれる家族をつくってあげたいと思っています。

仕事をする上で大切にしていることは？

入社4年目に入ってもまだ新しく学ぶことがあります。先輩だけでなく同期や後輩からも新しく学ぶことがあり、吸収したいです。それと後輩に教えることも大事にしています。やってみたいこと、こうしたほうがいいんじゃないかと提案することを新しいスタッフは遠慮しますが、むしろどんどんやってほしいと伝えています。私自身がいろいろ試したいからです。やってみてダメだったら変えればいいし、いろんなことをやってみてほしいです。

どんな時にやりがいを感じますか？

獣医師について治療などをサポートしていた子が譲渡に出るとうれしいです。また、支援者様からお手紙が届いて、自分たちが皆さんから犬たちのお世話を託され、必要とされているとわかるとやりがいを感じます。

八重樫さんから見て「ピースワンコ」はどんなプロジェクトですか？

このプロジェクトには、スタッフ、獣医師、支援者さん、里親さん、ものすごい数の方が関わっています。その全員が「犬」だけを見ています。「犬」だけを見ている人がこんなにいることがすごいです。支援する人、里親になる人、犬のトレーニングをする人、介護する人、譲渡する人、みんな「結論『犬』」の人が、「犬と人との幸せのため」に一つに集まっているのがすごいです(笑)。私も犬とはこれからもずっと関わっていきたいです。

これからの目標を教えてください。

いま一番大きい目標は譲渡です。オレンジ犬舎の犬で譲渡の可能性のある子を見つけていきたい。最近は移動に負担がない子、人が好きな子は積極的に譲渡会に出すようにしています。看護や介護が必要なワンコは譲渡に出にくいと考えがちですが、「この子たちも卒業できています!」とアピールしたいです。

犬・猫の保護・譲渡事業 〈活動期間：2010年～現在〉



日本の殺処分ゼロを目指す保護犬事業

コロナ禍で譲渡会の中止、首都圏の譲渡センターの一時休業などの影響を受けましたが、検疫施設からトレーニング、譲渡までのプロセスの効率化に努め、オンラインも活用することで、年間の譲渡・返還数は約600頭に達しました。その結果、収容頭数が年度を通して減少に転じ、2016年4月から続く広島県内での犬の「殺処分ゼロ」は1,700日を超え、累計の保護頭数は6,500頭を超えました。また、飼育環境の向上、安全対策の強化など、運営体制のさらなる改善にも取り組みました。



広島譲渡センター

〒733-0036
広島県広島市西区
観音新町4-14
ショッピングモール
「広島マリーナポップ」内



福山譲渡センター

〒721-0974
広島県福山市
東深津町2丁目9-15



岡山譲渡センター

〒700-0951
岡山県岡山市
北区田中109番地103



生駒譲渡センター

〒630-0121
奈良県生駒市北大和1丁目23-1
KS,CITY 北大和



神石高原シェルター

ピースワンコ・ジャパンの本拠地は、自然豊かな広島県神石高原町にあります。広々とした西日本最大級のドッグランもあり、犬と愛犬家がのびのびと遊べます。
〒720-1702
広島県神石郡神石高原町
上豊松72-8



世田谷譲渡センター

〒156-0054
東京都世田谷区
桜丘3丁目23-2
馬事公苑アーバンフラット
1-A 号室



湘南譲渡センター

〒251-0043
神奈川県藤沢市
辻堂元町6丁目20-1
湘南T-SITE1号館
GREEN DOG内



東京あきる野譲渡センター

〒197-0832
東京都あきる野市
上代継600番地
「わんだふるネイチャーヴィレッジ」内



「ワンだふるサポーター」になってピースワンコ事業を支えてください。

月々 1,000円～

ピースワンコ事業を継続的にご支援いただくプログラムです。保護した犬の新しい飼い主が見つかるまでの飼育や災害救助犬の育成費用などに使わせていただきます。

ピースワンコ 寄付

検索

<https://peace-wanko.jp/support.html>



佐賀伝統工芸振興

〈活動期間：2015年～現在〉



5年目となったふるさと納税事業では、返礼品を提供する伝統工芸事業者数は80を超え、事業者の認知向上、収益アップに貢献しています。商品開発プロジェクト「ピースクラフツSAGA EDITION」は3年目となり、焼物、敷物、家具とバラエティに富んだ商品群となりました。伝統工芸事業者を対象とした助成事業もスタートしました。



EDITION 2020「DOTS&LINES」
誰もが一度は見たことのある、水玉の急須でおなじみの副千製陶所さんでは、トレードマークの水玉を活かしたフリーカップを製作しました。



EDITION 2020「SQUARE」
綿製で肌触りがよく、日本の気候にあった鍋島織通を製作する鍋島織通吉島家さんとは、現代風にアレンジしたデザインの座布団のシリーズを製作しました。



助成先の事業者のひとつ、3代続く有田焼の福珠窯さんでは展示会出展と、器の模様柄のショッピングバッグ製作に活用されました。

地域創生（神石高原町）

〈活動期間：2015年～現在〉



広島県神石高原町の町立病院や診療所でPWJ医師が診療を支援しました。また、町内の体験型観光パーク「神石高原ティアガルテン」の運営協力を続けるとともに、起業支援などを行う神石高原地域創造チャレンジ基金の運営をサポートしました。



地域創生（瀬戸内・豊島）

〈活動期間：2014年～現在〉



NPO法人瀬戸内アートプラットフォームと協力し、瀬戸内海の豊島（とよしま）で現代芸術家ゲルハルト・リヒターの立体ガラス作品を一般公開しました。また、アーティストやアート関係者を招へいし、ライブラirie開設に向けた準備を進めました。愛媛県上島町の委託による「海の駅」の管理業務は3月で終了しました。



他にも！「ふるさと納税」もご利用いただけます。

ピースワンコ・ジャパン事業や佐賀伝統工芸事業、災害緊急支援事業などPWJのいくつかの事業はふるさと納税でのご支援も可能です。ご寄付が一定額までなら、2,000円を除いた金額が所得税・住民税から差し引かれます。詳しくはポータルサイト「ふるさとチョイス」をご覧ください。

PWJ ふるさと納税

検索

<https://peace-winds.org/support/furusato>



企業や団体からのご支援

PWJは企業や団体の皆さまを大切なパートナーと考え、連携を重視しています。今後も企業や団体の皆さまと連携を深め、より社会に貢献できる活動を目指します。

2020年度 支援企業・団体一覧



一般財団法人村上財団／日本たばこ産業株式会社／一般財団法人ホシザキ新星財団／パナソニック株式会社／全日本空輸株式会社(ANA)／PayPay株式会社／エンバワーヘルスケア株式会社／株式会社クレディセゾン／株式会社VERMILLION／株式会社エドウィン／プロロジス財団／BHP Japan／アムジェン株式会社／生活協同組合パルシステム東京／一般財団法人クラレ財団／バイエル薬品株式会社／一般財団法人MDRT日本会／ソフトバンク株式会社／株式会社高島屋／GNヒアリングジャパン株式会社／伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社／一般財団法人日本CRO協会／一般社団法人シェア基金／株式会社アウレオ／株式会社シェア・ワールド／アークシステムワークス株式会社／株式会社ユナイテッドアローズ／デッカーズジャパン合同会社／フォンテラジャパン株式会社／森六ホールディングス株式会社／敦賀断熱工業株式会社／シャディ株式会社／株式会社キヤラバン／笹塚・代田橋透析クリニック／株式会社アダストリア／JEANASIS／株式会社日陸(NRS)／シトリックス・システムズ・ジャパン株式会社／株式会社ベルコスメ／ケーエール・エン・テンコール株式会社／株式会社澤京／フィアット／丸中製菓株式会社／ナスコ株式会社／フォーエバーリビングプロダクツジャパン／プリティッシュ・アメリカン・タバコ・ジャパン／リシュモンジャパン株式会社(ダンセル)／医療法人財団慈光会堀切中央病院／岡田電機株式会社／株式会社祐真／株式会社小松製作所／株式会社永谷園ホールディングス／ユニリーバ・ジャパン・カスタマーマーケティング株式会社／ヤフー株式会社／READYFOR株式会社／アビームコンサルティング株式会社／サンゴバン株式会社／Euromonitor International／5大陸走破プロジェクト／ダイナデンシ株式会社／株式会社ブレーリッド／株式会社FF／エーアンドディ株式会社／株式会社ゴードン・ブラザーズ・ジャパン／Nordgreen株式会社／株式会社モリサワ／朝日生命保険相互会社／ヴィーナ・エナジー・ジャパン株式会社／三井化学株式会社／三菱ケミカル株式会社／アイ・エル・ジャパン株式会社／日興アセットマネジメント株式会社／サモフィッシャー・サイエンティフィック・ジャパングループ／ロンドン証券取引所グループ／株式会社デファクトスタンダード／株式会社キリンビバックス／リコー社会貢献クラブ・FreeWill／株式会社SOTA JAPAN／株式会社第一工業／村田宝飾株式会社／ネセサリー株式会社／バンドウィットコーポレーション日本支社／買取専門店「ザ・ゴールド」／MKPT研究会／SYLジャパン株式会社／一般社団法人ビー・シー・エス／一般社団法人メディックス／一般社団法人健康サービス／株式会社オルカ／ロングランプランニング株式会社／タッパウェア・ジャパン株式会社／株式会社ドリームゲート／WED株式会社／株式会社シュガーテイス／株式会社カラーズ／株式会社メディコム(月刊タウン情報トクシマ)／明星中学校・高等学校吹奏楽部／株式会社有隣堂／ショーケースaiima(アイーサーマ)／kiss it better／GMOリサーチ株式会社／レジアスインバト株式会社／株式会社タツミ建築／日本リネストリート株式会社／CeleValueTech株式会社／NIKOLA TESLA K.K.／株式会社常陸屋／株式会社アクセル／株式会社エクシース・ジャパン／株式会社オライリー・ジャパン／株式会社オリエントナノ／株式会社ストラテジック・シナリオ／中外製薬労働組合げっつと基金／株式会社フローブ／マツダ株式会社／レンフロ・ジャパン株式会社／イーオクト株式会社／イクア・ジャパン株式会社／ヤママエレクトロニクス株式会社



外務省・日本NGO連携無償資金協力／JICA／PRM／USAID／BHA／IHF／UN-Habitat／UNHCR／UNICEF／UN Women／Felissimo／
Give2Asia／公益財団法人ひろしま国際センター／JICF／JPF／JTIF／Johnson & Johnson

企業連携事例

空飛ぶ捜索医療団 災害派遣トレーニングの開催

ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ

2020年から、ヘルスケアに関する日本の様々な社会課題（高齢化、災害、マイノリティ等）に対して長期的な視点で取り組むプロジェクトへの助成を行っているジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人様の協力のもと「空飛ぶ捜索医療団災害派遣トレーニング」を開催しています。
この研修は「大規模災害時に備え、一人でも多くのヘルスケアワーカーが災害医療・医療以外の災害支援について理解し、参加者の所属組織の災害時の初動体制、業務内容などを見直す契機とする」ことを目的としています。



従業員寄付および法人寄付による 小規模医療機関等への支援

パナソニック株式会社

パナソニック株式会社様では、新型コロナウイルス感染拡大を受けて、2020年6月に従業員募金キャンペーンが開催されました。PWJには、従業員の皆様からのカフェテリアポイントによる寄付に会社が上乗せをする寄付方式でご支援をいただきました。
約170の小規模医療機関へビニールガウンの提供を行ったほか、発熱外来用テントの寄贈や、感染症と自然災害の複合災害を見据えた医療機器の装備、また、クラスターが発生した医療機関への緊急物資支援等に活用させていただきました。

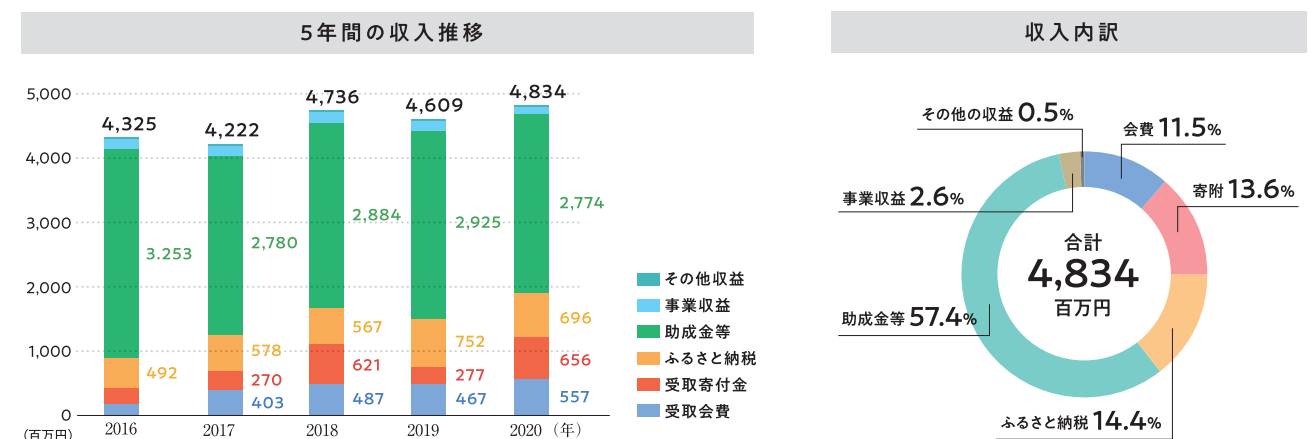


会計まとめ

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が世界中に広がる中、空飛ぶ捜索医療団を中心としたコロナ支援への関心が高まったことをご寄付や新規の助成金獲得に繋がりました。支援は、感染症予防対策のアドバイスやクラスター発生施設支援へと拡大しています。一方、海外での支援は、渡航制限やロックダウンの影響を受け、事業に遅れが出ました。そのため、計画通りの助成金・補助金の獲得につながらず、助成金・補助金収入は昨年よりも減少しています。支援を途切れさせないようにするため、後半は各国でのコロナ対策支援を強化することで、これまでの活動と合わせた複合的な支援による新たな助成金の獲得を目指しています。国内の災害対応では、資産売却やコスト削減によるスリム化と同時に、緊急時に派遣する隊員を一般公募して登録するロスター制の運用が始まり、効率性の向上と支援規模の拡大の両面に取り組んでいます。保護犬事業では、広島県の犬の「殺処分ゼロ」の継続が1750日を超え、譲渡・返還数も累計2,600頭に達しました。コロナ下でもオンラインを活用した譲渡活動を促進したことで、年間を通じて収容頭数が初めて減少に転じています。一方で、動物愛護法の改正に伴う数値基準が新設されたことに適切に対応するため、段階的に整備費用が必要となることから、支援を呼びかけるために取り組んでいるSNSでの発信や動画を活用した広報活動を強化しました。

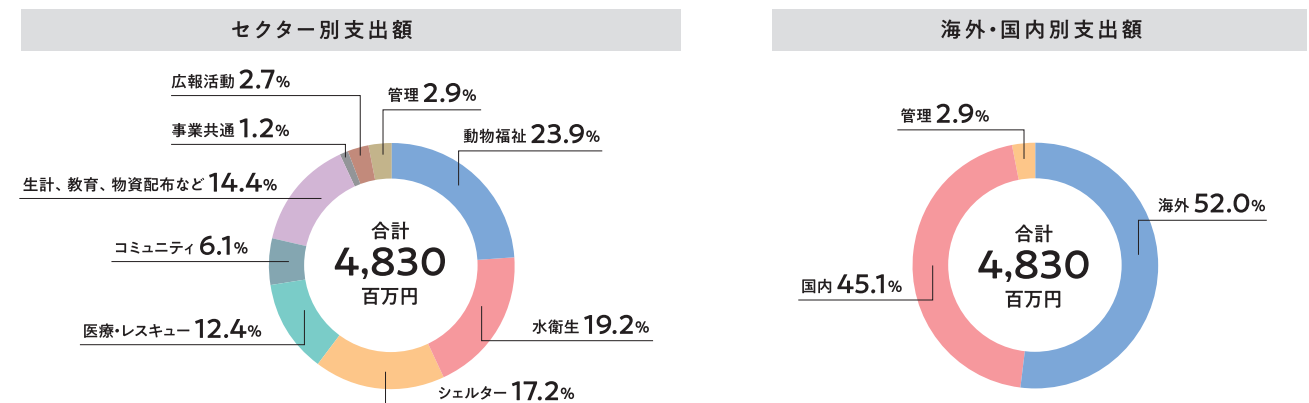
経常収入の推移及び内訳

経常収入は、国内でのコロナ支援事業の拡大に伴い、過去最高の48.3億円となりました。2020年度の助成金収入の割合は57.4%（前年より-6.1）となり、寄付・会費・ふるさと納税による収入が合わせて39.5%（前年より+7.1）です。



経常支出の内訳

2020年の経常支出をセクター別に分けると、1位は、国内の保護犬事業23.9%（前年より+3.8）、2位と3位は海外の難民キャンプや帰還民への水衛生支援19.2%（前年より-10.7）とシェルター（ 캄プインフラ整備を含む）支援17.2%（前年より+2.7）となりました。海外事業と国内事業の比率は、海外事業が52%（前年より-6.2）に対して、国内事業は45%（前年より+6.8）です。



2020年度会計報告

第22期事業年度 特定非営利活動に係る事業〈活動計算書〉 2020年2月1日～2021年1月31日

科 目		金 額（円）	
経 常 収 益			
受 取 会 費	正会員受取会費	2,400,000	557,129,013
	賛助会員受取会費	830,000	
	ピースサポーター	25,411,412	
	ワンだふるサポーター	497,493,701	
	ワンだふるファミリー	27,154,000	
	ARROWSサポーター会費	488,000	
	ARROWSメディカルサポーター会費	323,000	
	その他受取会費	3,028,900	
受 取 寄 付 金	受取一般寄付金	25,840,664	659,448,790
	受取特定目的寄付金	619,432,294	
	物品・現物等寄付収入	14,175,832	
受 取 助 成 金 等	ふるさと納税交付金	696,186,800	3,470,295,705
	受取民間助成金	1,799,747,382	
	受取補助金	390,858,717	
	国連等補助金	583,502,806	
事 業 収 益	フェアトレード事業収益等その他売上	80,024,078	127,422,146
	業務委託	22,900,452	
	その他事業収益	24,497,616	
そ の 他 収 益	受取利息	981,209	19,509,451
	雑収益	18,528,242	
経 常 収 益 計		4,833,805,105	

経 常 費 用			
事 業 費	(1)人件費	1,021,802,631	事業費計 4,690,970,194
	(2)その他経費	3,669,167,563	
管 理 費	(1)人件費	67,668,699	管理費計 139,173,131
	(2)その他経費	71,504,432	
経 常 費 用 計		4,830,143,325	
当期経常増減額		3,661,780	

経 常 外 収 益			
	固定資産売却益	120,999,999	
	固定資産受贈益	68,105,971	
経 常 外 収 益 計		189,105,970	

経 常 外 費 用			
	固定資産除却損	223,092	
	助成金返還額	7,408,105	
	為替差損	40,440,456	
	支払利息	39,013,088	
	その他経常外費用	145,488	
経 常 外 費 用 計		87,230,229	

税引前当期正味財産増減額	105,537,521
法人税、住民税及び事業税	925,100
当期正味財産増減額	104,612,421
前期繰越正味財産額	36,885,871
次期繰越正味財産額	141,498,292

第22期事業年度 特定非営利活動に係る事業〈貸借対照表〉 2021年1月31日時点

資 産			
科 目	金 額（円）		
流 動 資 産	現金預金	652,689,223	流動資産合計 1,383,144,624
	海外現金預金	246,372,167	
	売掛金	10,015,447	
	商品	42,643,607	
	貯蔵品	8,716,789	
	未収入金	178,821,298	
	未収収益	9,780,889	
	立替金	3,320,933	
	前払金	6,538,760	
	前払費用	7,158,146	
	仮払金	176,633,000	
	未収補助金等	39,536,563	
	預け金	917,802	
固 定 資 産	建物	519,429,618	固定資産合計 1,470,778,259
	建物付属設備	106,208,150	
	構築物	62,113,376	
	車両運搬具	7,117,354	
	工具器具備品	23,510,036	
	機械装置	465,138	
	船舶	27,981,368	
	航空機	118,344,167	
	生物	420,233	
	土地	16,582,576	
	美術品	450,000,000	
	図書	13,420,534	
	リース資産	26,830,958	
	建設仮勘定	283,586	
	有形固定資産計	1,372,707,094	
	電話加入権	385,392	
	商標権	421,218	
	水道施設利用権	283,920	
	借地権	1,857,600	
	無形固定資産計	2,948,130	
	子会社株式	5,594,700	
	投資有価証券	43,500,000	
	出資金	50,000	
	長期貸付金	22,783,395	
	長期前払費用	1,423,267	
	敷金及び保証金	21,771,673	
	投資その他の資産計	95,123,035	
資 産 の 部 合 計		2,853,922,883	

負 債 及 び 正 味 財 産			
科 目		金 額（円）	
流 動 負 債	仮受金	195,970	流動負債合計 2,025,462,234
	未払金	310,321,565	
	未払費用	1,037,060	
	預り金	21,097,490	
	前受金	94,928	
	短期借入金	542,524,113	
	1年内返済予定長期借入金	345,378,273	
	前受助成金等	802,690,935	
	未払法人税等	925,100	
	未払消費税等	1,196,800	
固 定 負 債	退職給付引当金	29,748,180	固定負債合計 686,962,357
	リース債務	29,870,124	
	長期未払金	1,855,912	
	長期借入金	625,198,770	
	長期前受収益	289,371	
負 債 の 部 合 計		2,712,424,591	

正 味 財 産	前期繰越正味財産額	36,885,871	正味財産 141,498,292
	当期正味財産増減額	104,612,421	
正味財産の部合計			141,498,292
負債の部及び正味財産の部合計			2,853,922,883

PWJは、高塚公認会計士事務所、
青木幹雄公認会計士事務所による
外部監査を受けております。

財務諸表及び外部監査報告書の全体は
掲載のURLまたはQRコードより
ウェブサイトにてご確認ください。



<https://peace-winds.org/about/report>

独立監査人の監査報告書		2021年4月15日
特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン 代表理事 大西 健希 殿		
	高塚公認会計士事務所 公認会計士 高塚直子	
	青木幹雄公認会計士事務所 公認会計士 青木幹雄	
＜財務諸表等監査＞ 監査意見 私たちは、特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンの2020年2月1日から2021年1月31日までの第22期事業年度の活動計算書、貸借対照表及び財務諸表に対する注記（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。 私たちは、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められるNPO会計基準に準拠して、特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンの2021年1月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の活動の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。		

ACTIVITIES IN 2020

ピースウィンズ・ジャパンは2020年度、日本を含む19の国と地域で活動し、
2,043,264人の方々に支援を届けました。

2020年度の支援事業一覧

IRAQ〈イラク〉		支援内容	実施場所	受益者
シリア難民支援	インフラ整備	キャンプ内外の道路、配電網、給水施設、シェルター、公共施設の改善	ドホーク州	495,493人
	生活物資配布	越冬物資配布	ドホーク州	
	シェルター、生計支援	キャンプ内住宅改善、住宅改善工事を通した雇用機会提供	ドホーク州、アルビル州	
帰還民支援	教 育	学校の校舎修復・新設、学校備品供与	ニネワ州	
	技術訓練	職業訓練研修	ニネワ州	
	シェルター	戦闘による損壊家屋の修復	ニネワ州	
	水・衛生	給水支援、給水施設整備、衛生環境改善	ドホーク州、ニネワ州	
国内避難民支援 (ホストコミュニティ含む)	学校保健	学校健診、治療、保健啓発活動	ドホーク州	
	インフラ整備	配電網修復、キャンプ間道路環境改善	ドホーク州	
	水・衛生	給水支援、給水施設整備、衛生環境改善、新型コロナウイルス感染症対策	ドホーク州、ニネワ州	
	技術訓練	職業訓練研修	ドホーク州	
SYRIA〈シリア〉		支援内容	実施場所	受益者
紛争被災者支援	食料配布	国内避難民及びホストコミュニティを対象とした食料キットの配布	アレッポ県、ハッサケ県、イドリブ県	6,420世帯 33,824人
	生活物資配布	国内避難民および戦闘の影響を受けた世帯の子どもを対象とした冬服の配布	ダマスカス郊外県	691世帯 1,200人
	住宅再建	帰還民及び帰還を望む国内避難民を対象とした、爆撃等により破壊された住居の修繕	アレッポ県、ダマスカス郊外県	100世帯 548人
	教 育	爆撃等により破壊された校舎の修繕	ダマスカス郊外県、デリゾール県	2校 1,185人
	水・衛生	国内避難民及びホストコミュニティを対象とした衛生用品キットの配布	アレッポ県、ハッサケ県、イドリブ県	5,850世帯 30,731人
PALESTINE〈パレスチナ〉		支援内容	実施場所	受益者
紛争被災者支援	保健栄養支援	未就学児の健康診断、栄養治療、家族向け栄養研修および幼稚園の能力強化	デール・エル・ナラハ県、 ハーン・ユニス県、ラファハ県	7,694人
	技術訓練	若者を対象とした職業技術訓練センターの設置および研修の実施	北ガザ県、ハーン・ユニス県、ラファハ県	
AFGHANISTAN〈アフガニスタン〉		支援内容	実施場所	受益者
食糧危機支援	食 糧	社会経済的弱者に対する食糧支援	ナンガルハール県	3,402人
復興支援	能力向上	NGO能力強化トレーニング	アフガニスタン全土	
UGANDA〈ウガンダ〉		支援内容	実施場所	受益者
南スーダン難民支援	水・衛生、住宅再建	半恒久住宅とトイレの建設や修繕、 学校や保健施設での衛生普及活動支援・トイレ建設	アジュマニ県、アルファ県、ユンベ県	77,292人
コンゴ民主共和国難民支援	水・衛生	小学校へのトイレ建設や手洗いタンク設置、生徒・教員への衛生普及、 地域の給水タンクの整備等	チュゲグワ県	15,255人
SOUTH SUDAN〈南スーダン〉		支援内容	実施場所	受益者
国内避難民・帰還民支援	水・衛生、医療	国内避難民キャンプや帰還民を受け入れるホストコミュニティを対象とした 給水衛生や保健支援、新型コロナウイルス感染症予防支援	ジョングレイ州、中央エクアトリア州、 東エクアトリア州	762,234人
帰還民支援	農 業	バッタ被害を受けた農家およびホストコミュニティへの農業支援	東エクアトリア州	4,468人
KENYA〈ケニア〉		支援内容	実施場所	受益者
ソマリア難民支援 (ホストコミュニティ含む)	住宅再建	難民世帯の仮設住宅建設	ガリッサ郡	1,000人
	生計向上	キャンプ周辺地域住民の建設技能向上・起業支援		11,839人
南スーダン難民支援 (ホストコミュニティ含む)	住宅再建	難民への現金給付による恒久住宅建設支援	トゥルカナ郡	76,295人
	水・衛生	難民居住地区への給水パイプラインの敷設、 難民居住地区と周辺地域のトイレ建設や啓発などの衛生環境改善		
害虫被害支援	能力強化、農業	サバクトビバッタ被害を受けたトゥルカナ郡住民への害虫対策支援・難民への食料支援	トゥルカナ郡	200,150人
MOZAMBIQUE〈モザンビーク〉		支援内容	実施場所	受益者
サイクロン被災者支援	水・衛生	井戸や給水システムの建設と修繕、井戸管理委員会への研修	ソファラ州ニヤマタンダ郡、ドンド郡、ブジ郡	17,120人
	保健・医療	病棟と医療従事者養成校校舎の修繕、資機材供与	ペイラ市	585人



ETHIOPIA〈エチオピア〉		支援内容	実施場所	受益者
南スーダン難民支援	衛生	難民世帯のトイレ建設、衛生啓発活動等	ガンベラ州	45,815人
HAITI〈ハイチ〉		支援内容	実施場所	受益者
コミュニティ支援	防災、建設技術支援、衛生	コミュニティセンター4棟の建設、維持管理委員会の組織、防災教育および衛生教育	南県シャンタルコミュニティ	21,719人
生計支援	生計向上	カシュ加工・販売を行う女性生計グループ支援	南県サンジャン・ドゥ・スードコミュニティ モワンドル地区	800人
SRI LANKA〈スリランカ〉		支援内容	実施場所	受益者
帰還民再定住支援	農業、コミュニティ開発	農業水利施設の整備による 農地の復興と農業収入の多源化による収入向上支援	トリンコマリ県 ムトゥワラ郡、クッチャベリ郡、 バダビシリプラ郡、キンニヤ郡、ヴェールガル郡	13,676人
MYANMAR〈ミャンマー〉		支援内容	実施場所	受益者
難民帰還促進支援	水・衛生	給水施設の建設および維持管理研修や衛生教育講習	カレン州	18,342人
NEPAL〈ネパール〉		支援内容	実施場所	受益者
ネパール大地震 被災者支援	水・衛生	水へのアクセス改善と野菜栽培による生計向上	シンドゥバルチョーク郡	711人
	農 業	農家のグループ化による営農改善および日本の過疎地域の経験を活用した生計向上	シンドゥバルチョーク郡	471人
	ジェンダー	ネパール伝統工芸ダカ織りを営む女性への技術支援	バクタプル郡	150人
BANGLADESH〈バングラデシュ〉		支援内容	実施場所	受益者
ミャンマー難民支援	保健・医療	難民キャンプ内での診療所運営、母子保健サービスの移動式診療・啓発活動の実施	コックスバザール県ウキア郡・テクナフ郡	94,764人
サイクロン被災者支援	災害支援	食糧・生活再建物資・衛生用品の配布、感染症予防啓発活動、給水施設設置	バトッアカリ県ゴラチハ郡、 バゲルハット県シャランコラ郡	80,290人
INDONESIA〈インドネシア〉		支援内容	実施場所	受益者
地震・津波被災者支援	農業・給水・衛生・防災	トイレ、給水施設建設、衛生環境知識向上活動、農業再開および災害リスク管理能力強化	スラウェシ島中部スラウェシ州	11,222人
EAST TIMOR〈東ティモール〉		支援内容	実施場所	受益者
地域開発支援	コーヒー生産者自立	コーヒー品質管理体制強化による小規模コーヒー生産者支援および支援地域の拡大	エルメラ県・デシリ市	3,059人
MONGOLIA〈モンゴル〉		支援内容	実施場所	受益者
子ども支援	子どもの保護	貧困家庭の子どもたちの自立支援	ウランバートル市	49人
CHINA〈中国〉		支援内容	実施場所	受益者
COVID-19医療支援	緊急支援	支援チームの派遣、医療機材やマスクなど衛生用品配布	上海市および周辺	4,150人
JAPAN〈日本〉		支援内容	実施場所	受益者
西日本豪雨被災者支援	災害支援	コミュニティ再構築、防災	岡山県倉敷市真備町、総社市、 高知県高知市	7,728人+32団体
東北復興支援	災害支援	高齢者等の活動拠点の運営支援	宮城県南三陸町	地域住民(不特定多数)
台風19号緊急支援	災害支援	物資支援、家電配布、放課後デイサービス支援など	宮城県	不特定多数
2020年7月豪雨被災者支援	災害支援	医療支援、物資支援など	熊本県	不特定多数
新型コロナウイルス対策緊急支援	災害支援	医療支援、物資支援、高齢者施設支援など	全国	不特定多数
犬の保護・譲渡など	動物保護活動	犬の保護・譲渡活動、シェルター・譲渡センターの運営、 災害救助犬・低血糖アラート犬の育成など	広島県、岡山県、東京都、 神奈川県、奈良県	不特定多数
馬の保護	動物保護活動	元競走馬2頭のリトレーニング	福島県	不特定多数
花粉症対策	環境保全活動	植樹した山林のモニタリング	広島県神石高原町	――
伝統工芸振興	地域創生事業	佐賀の伝統工芸の商品開発、助成、情報発信、販路開拓等の振興支援	佐賀県	不特定多数
医療支援	地域創生事業	過疎地の病院、診療所における診療支援、訪問診療支援	広島県	地域住民(不特定多数)
芸術振興・まちづくり	地域創生事業	瀬戸内海の無人島で現代芸術家の作品の公開、海の駅運営支援	愛媛県	不特定多数
被災(害)者支援、教育	教育・子ども支援	若者育成のサマーキャンプ開催準備、留学生支援	広島県神石高原町、愛媛県上島町	留学生3人

※受益者の算出について：村でのインフラ整備など、地域全体が対象となる支援については、その地域の人口を受益者数としています。



ABOUT US

団体情報

VISION ビジョン

人びとが紛争や
貧困などの脅威にさらされることなく、
希望に満ち、尊厳を持って生きる世界をめざします。

MISSION ミッション

1. 紛争や自然災害などにより、生命が脅かされている人びとに対し、迅速に緊急人道支援を行います。
2. 社会的基盤の崩壊などにより、困窮している人びとに対し、自立のための復興・開発支援を行います。
3. 支援地での活動を通じ、紛争の予防および解決に取り組みます。
4. 支援の必要性に対する情報を発信し、市民の関心を喚起します。
5. 援助システムをより効果的にするための提言を行い、その改善に取り組みます。



団体概要

名 称	特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン
設 立	1996年2月
法人格取得	1999年10月
ス タ ッ フ 数	計411人（国内スタッフ 202人、海外現地スタッフ 209人）

代 表 理 事	大西 健丞
理 事	石井 宏明 桑名 恵 渋谷 健司 三宅 登志子 山本 理夏
監 事	川合 孝一

特定非営利活動法人 **ピースウィンズ・ジャパン**

✉ meet@peace-winds.org  <https://peace-winds.org>

ピースウィンズ

検索

 ピースウィンズ・ジャパン

 @PeaceWindsJapan

 @peacewindsjapan

本部事務所

〒720-1622 広島県神石郡神石高原町近田1161-2 2F
TEL.0847-89-0885(代) FAX.0847-82-2949

東京事務所

〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷2-41-12 富ヶ谷小川ビル2F
TEL.03-5738-8020(代) FAX.03-3465-2112

佐賀事務所

〒840-0831 佐賀県佐賀市松原1-3-5 まるなかビル6F
TEL.0952-20-1607(代) FAX.0952-20-1608

寄付控除の対象です

PWJは「認定NPO法人」として広島県に認定されています。これによりPWJへのご寄付は税金控除の対象となります。(正会員会費は対象外です。)

ご寄付は大切に使います

皆さまからのご寄付は、世界中の支援を必要としている人々のために大切に使わせていただきます。PWJの寄付金等取扱規程はWEBサイトでご覧いただけます。
https://peace-winds.org/support/pdf/A13kihukin_20210319.pdf

詳しくは、支援者サービス係までご連絡、
もしくはPWJのWEBサイトをご覧ください

TEL **0120-252-176**

平日 10:00~17:00

ピースウィンズ 寄付

検索

<https://peace-winds.org/support>

